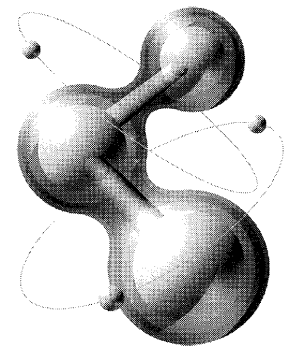


2020年度 NEDO—モノづくり日本会議「TSC Foresight」オンラインセミナー

アフターコロナ社会変革の力ギ!

人×AIとリモート技術の融合

モノづくり日本会議と新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は2月10日、オンラインセミナー形式で「TSC Foresight」アフターコロナ社会変革の力ギ!人×AIとリモート技術の融合」を開催した。



モノづくり日本会議 モノづくりへの挑戦

NEDO 技術戦略研究センター センター長 岸本 喜久雄氏



NEDOのミッションはエネルギー・地球環境問題解決と、産業技術力の強化だ。当センターは2014年に発足し、調査研究を通じて産業技術分野と、エネルギー・環境分野の技術開発を推進している。

経済産業省 産業技術環境局 研究開発課課長 遠山 毅氏



コロナ禍にあつて私たちの仕事のやり方や生活の仕方は相当変わってきた。コロナ禍と戦いつつも、デジタルを軸とした社会のあり方については世界で進んでいる。



NEDO 技術戦略研究センター デジタルイノベーションユニットユニット長 伊藤 智氏

デジタルイノベーションユニットユニット長 伊藤 智氏

革新的技術開発事業で取り組み

率や信頼性を高める。具体的には技術開発要素があり、共通基盤を作った上で、個別分野にカスタマイズする。まず5感を伝える技術「XR」を高度にし、視覚、聴覚に加え触覚、嗅覚、味覚といった情報を人に提示する。

TSC Foresight「スマートテレオートノミー」

コロナ禍のニューノーマルとして社会変革が期待される。人々の密集を避けるためにも、ロボットなど自律して動く機械やオンライン授業などリモート技術の活用が進んでいる。

や分身ロボットなど導入が始まっている。一方、遠隔の作業現場の様子をリアルタイムに、作業時間がかからない1対1の操作で効率化が図られている。人と接してしまつて安全面に不安が残るといった課題もある。

人を空間・時間の制約から解放/創造性発揮する社会へ

ロボティクス・AI 日本が基準づくりを



長井氏 持丸氏 柏谷氏 金井氏

岸本 本日は長井様からクイズを使ってAIでリモートで登壇されるなど、まさにオンラインのディスカッションが空間・時間の制約を超えていることを紹介願います。

持丸 VではなくJ字回復というか、社会は違うところへ進む。人間拡張は多様性を拡大する方向にある。それを受容でき、人への安全性を考慮する社会になる。

パネルディスカッション



金井 もともと神経科学者で、脳科学の知見をAIと絡めて実世界で役に立つよう活用したい。まずAIの実用化に取り組んで、脳とAIの連携を進めたい。

岸本 人間中心の社会に向かうべきだということと、コロナで気がついたように、多様な働き方が活性化し、発展していく。

金井 もともと神経科学者で、脳科学の知見をAIと絡めて実世界で役に立つよう活用したい。

岸本 人間中心の社会に向かうべきだということと、コロナで気がついたように、多様な働き方が活性化し、発展していく。

金井 アジアの経済規模が今後圧倒的に大きくなる中、中国は制度が異なることもあり、日本がこれを考えるながら技術に取組む。社会実装に向けては、例えば東京に実験場を作つて、皆でロボットを楽しみながら技術を伸ばしていきたい。

NEDO技術戦略研究センター次長 西村 秀隆氏 今回、NEDOが取りまとめた技術戦略や今後取り組む予定のプロジェクト構想を共有させていただき、議論できた。将来像として、わが国が掲げるソサエティ5.0は、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合し、経済発展と社会課題解決の両立を目指している。

伊藤 リモートワークで通勤時間がなくなるなど、働く人の有効な時間が増えた。遠隔地で仕事ができる環境は更に広まる。スマートテレオートノミーが活用できる。

TSC Foresight is evolving and continuing. TSC Foresight Mark about TSC's mission to capture social changes and propose future scenarios.

NEDO Technology Strategy Center. 2020年度より「社会の変化を敏に捉える」活動として、「TSC Foresight 短信レポート」の発信を始めました!